



検査センター職員を順次紹介していくコーナーです。私たちは「顔の見える検査センター」を目指しています。先生方のご意見・ご感想をぜひお聞かせ下さい。

♥ 129人目



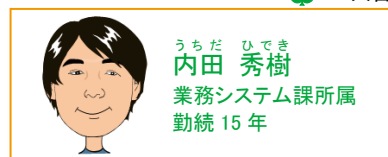
岐路

学生時代より医療系の仕事に就きたいという思いがありましたが、職種の選択に悩んだ時期もあります。そんな中、とある書店で手にした1冊の本が、私の臨床検査技師として働きたいという思いを強くしました。著者は医学博士の奈良信雄先生で、タイトルは「一滴の血液で体はここまで分かる」です。血液の働きや仕組みのほか、血液検査は健康を観察するための最強にして簡単な方法と書かれてありました。

この検査センターに就職し、搬入される検体量の多さから、前述した本の内容を一層理解することができました。免疫血清に配属され1年半が経ちました。ミスなく検査するために頭の中で整理しながら業務にあたりますが、輸血検査ではいつも以上に慎重になります。

反面、休日は読書（重松清さんの作品が特にお気に入り）やライブコンサートなどで心身をリフレッシュしています。

♣ 130人目



診療現場の様子を見てきたからこそ

現在、主として検査依頼書内容のパソコン入力作業を担当していますが、私にとって特に印象が残っている部署は滅菌消毒部門です。そこでは、特定化学物質等作業主任者の資格も取得できましたし、リーダー的立場で滅菌機器の更新検討にも関わることができました。とても充実し、楽しい毎日でした。

それ以前は、電算室やシステム部門といったプログラムを扱う業務がメインでした。所内作業はもとよりご利用施設様に向きパソコン作業（検査データ配信設定、メンテナンス etc.）をする時期もありました。そして、そのときの経験が今でも役立っています。

訪問先では先生方が患者さんのために真剣に診療なさっていました。そんなお姿を見てきたからこそ、余計にご迷惑をおかけしてはならないと意識して業務にあたっています。